

■京浜盃（SII）アラカルト（過去全 43 回の分析）

※第 25 回（平成 14 年）から第 26 回（平成 15 年）までは大井ダ 1,690m で実施
※記録は令和 3 年 3 月 10 日時点

■上位人気馬が強い

単勝 1 番人気馬は 19 勝、2 着 8 回、3 着 2 回で、3 着内率が 67.4%、単勝 2 番人気馬は 10 勝、2 着 7 回、3 着 6 回で、3 着内率が 53.5%、単勝 3 番人気馬は 9 勝、2 着 9 回、3 着 4 回で、3 着内率が 51.2%となっている。単勝 1 番人気馬をはじめとする上位人気馬がそれなりに信頼できるレースと言えそうだ。

■9 割近くの回で 3 番人気以内の馬が勝利

過去 43 回のうち 38 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 20 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 5 回ある。

■優勝馬の大半は大井勢と船橋勢

所属別の勝利数を見ると、浦和が 2 勝、船橋が 18 勝、大井が 19 勝、川崎が 4 勝となっている。船橋と大井で全体の 9 割近くを占めている計算だ。

■牝馬は 4 勝、外国産馬は 1 勝

牝馬の優勝例は第 4 回（昭和 56 年）のコーナールビー、第 12 回（平成元年）のロジータ、第 15 回（平成 4 年）のカシワズプリンセス、第 34 回（平成 23 年）のクラーベセクレタと、4 例ある。なお、外国産馬の優勝例は第 28 回（平成 17 年）のシーチャリオットのみである。

■騎手別の歴代最多勝記録は「5」

騎手別の勝利数を見ると、石崎隆之騎手が 5 勝で単独トップ。高橋三郎騎手、的場文男騎手が 4 勝で 2 位タイ、戸崎圭太騎手、森泰斗騎手が 3 勝で 4 位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「5」

調教師別の勝利数を見ると、佐藤賢二調教師が5勝で単独トップ、川島正行調教師が3勝で単独2位、岡部猛調教師、武森辰己調教師、出川克己調教師が2勝で3位タイとなっている。

■ 4～5 枠が優勢、1 枠は不振

枠番別勝利数を見ると、4 枠（9 勝）が単独トップ。5 枠（8 勝）が単独2位、7 枠（6 勝）が単独3位となっている。なお、1 枠（1 勝）以外はいずれも4 勝以上だ。また、馬番別勝利数を見ると、4 番（9 勝）が単独トップ。6 番（6 勝）が単独2位、5 番（4 勝）が単独3位となっている。ちなみに、未勝利の馬番は3 番と16 番だけである。